



泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき

各地のガイドブックも置いています。ゴールデンウィークなどに活用してみてください。

メロン



新着・お薦め図書

泗水図書館

禁忌	フェルディナント・フォン・シーラッハ	著
十二の肖像画による十二の物語	辻 邦生	著
有頂天家族 二代目の帰朝	森見登美彦	著
恋形見	山口恵以子	著
レオナルドの扉	真保裕一	著
21世紀の資本	トマ・ピケティ	著
死の体験授業	山崎章郎	著
東京駅をつくった男	大塚菜生	著
トヤのひっこし	バーサンスレン・ボロルマー	絵

中央公民館

跳びはねる思考	東田直樹	著
ハリー・ポッターの魔法ワールド大図鑑	七会 静	著
僕はまだがんばれる	大村詠一	著
神様の裏の顔	藤崎 翔	著
冷たい晩餐	ヘルマン・コッホ	著
テーマパークの黒髪人形	斎藤 洋	作
ぼくのニセモノをつくるには	ヨシタケシンスケ	作

七城公民館図書室

世界で最初の音	白川 道	著
ラスト・ワルツ	柳 広司	著
はじめまして	近藤薫美子	作・絵
ネコが好きな船長のおはなし	インガ・ムーア	作・絵

旭志公民館図書室

図書館の魔女 鳥の伝言	高田大介	著
世界一美しい自然現象図鑑	渡部潤一	監修
あまねく神竜住まう国	荻原規子	作
ペンギンきょうだい バスのたび	工藤ノリコ	作

耳より情報

「桜の里菊池」メッセージ絵本完成!

世界に1つしかない桜の形をしたすてきな絵本を作りました。



中央図書室



旭志図書室

2015 子ども読書フェスティバル

と き 5月6日(水)祝～10日(日)
 と ころ 泗水図書館



おはなし会

5月6日(水)祝
 午前11時～ ボランティアのおはなし会
 午後2時～ 昔話ワールド



マンガピクニック広場

5月9日(土)～10日(日) 午後1時～4時
 青空の下でマンガを読もう!
 ※雨天の場合は館内に変更します。



講演「マンガって魅力的☆」

5月10日(日) 午前11時～12時
 NPO法人マンガミュージアム
 プロジェクト代表 橋本博さん

リサイクル図書をお配りします♪

無料

5月6日(水)祝 午前10時～
 図書館で利用しなくなった本を無料配布します。
 ※無くなり次第終了します。

泗水図書館からのお得情報

★ 毎週水曜日は午後7時まで
 ★ 開いています!

泗水図書館では多くの人に利用していただけるよう、毎週水曜日の開館時間を延長しています。どうぞご利用ください。

万句の里俳句会 3月句会

頂きし春子もいれて夫忌日

田中ひさ子

今宵又訃報届くや春時雨

稲田 羚子

眠りたる猫の寝息や春の宵

宮本 敏子

志あるが如くに揚雲雀

光本とよいち

せせらぎの声にめざめて猫柳

田中 美智

せせらぎ俳句会 3月例会

たんぽぽを踏みつけている反抗期

五丁 義昭

亡き人と撮りたき庭の富士桜

村山 数恵

洗濯も布団も干して雲雀鳴く

藤本アツ子

水仙の香に満たされし佛の間

服部 静子

かささぎの寄るを横目に春田打つ

藤本 邦治

旭志文芸教室俳句の会3月詠草

這いはいの上手になりて雛祝ひ

水谷 ミネ

限界集落身に迫り来し春惜しむ

芹川のり子

かいつぶり長閑に輪をかく里の川

中尾ヨシコ

垣根越し野菜届くる春隣

芹川 蓉子

肥後狂句水笑会 3月例会

哀れな人 身の丈で暮らせんだった

辻 弘喜

まるで詐欺 公約どっかふっ飛んで

藤野 清子

まるで詐欺 実は口パクだった歌手

光堀 善教

馬鹿ばい アバ靴で帰りはスリッパ

上村 ○子

作り話 相槌打って聞く狸

小川 繁美

肥後狂句水笑会 3月例会

あなただけ 言うて金ずるつかまゆる

宮上 美由

あなただけ 私にブスて言わすとは

井手 水光

御免ねえ 課長の椅子ば飛び越して

小崎 海美

あなただけ そっと耳うちささい

続 義昭

アゴんだる 入れ歯忘れち食うナマ

山隈 好茶

七城短歌会 3月詠草

「三つつのつ」心にひびき再びを領き
 読みゆく市長の提言 池田カツ子

羽広げゆつくり空に弧を描く鳶の眼
 の視野に想い馳す 嶋田 晴美

我が隙を狙うは何鳥南天の赤き実な
 べて持ち去りいたり 緒方 寛子

網垣にとまる水玉うつろげに見つめ
 練りいる出詠の一首 岩崎 照代

僅かとして農地を継ぎて今日がありお
 のずと手が合う残照のなか 緒方 正俊

「里短歌会 3月詠草」
 菜の花の黄の柔らかに野に満ちて卒
 園間近の子どもら光る 緒方 悦子

阿蘇の山野焼きの炎駆け上る大地が
 動く春が目覚める 桑野 睦子

春祭姉の自慢のよもぎ餅北宮神社に
 かって供へし 松本 幾代

「来る客も帰る客も又福の神」の書に
 惹かれて再度訪ふ友の玄閑 山城 雅子

それぞれの老人クラブのステージに
 明るき歌声「七城・亘区」合唱団 安見 朱實

秋またず栗の数本切られたり味覚も
 父の面影も消ゆ 岩木タエ子

未枯れたる庭にかすかな息吹きあり
 粗草はやも淡き緑に 山代 静子

久々に青空仰ぎ庭に立つ小鳥囁り今
 日の幸せ 安東 綾子

※竹野美智代師追悼短歌会より
 君愛せし裏川の塘一面に菜の花盛り
 よ黄泉路へ続け 村上さき江

五月晴れ風をはらみて高高と家族揃
 ひて踊り舞ふ鯉 川口 幸臣

立ち枯れあじさゐの影でんと
 芽の膨らみて師は旅立てり 安藤 則子

私の辺をゆるりとよぎる太き猫黒き
 毛並みの光をはじく 岩永 典子

恩師なる伝松氏に会ひ添削を受けて
 居られん天の国にて 古賀 勝士

菊池短歌会 3月詠草

如月の湿土に雨の春を呼ぶ小松葉繁
 り菜の花匂ふ 北村 玉恵
 家族愛溢れる演劇「菊次郎とサキ」
 昭和の時代の心ほのぼの 田中 遙子

